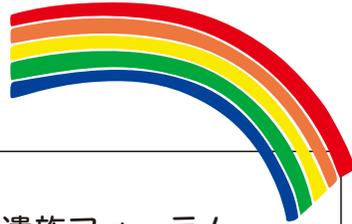


第22回パネル展「私の中で今、生きているあなた」

I N出雲



自死遺族フォーラム



自死遺族フォーラム



自死遺族パネル展



自死遺族パネル展



山陰中央新報2010年12月17日

新報

(第3種郵便物認可)

自殺は社会の問題

きょうから 遺品や手記で訴え

出雲

自ら命を絶った50人の遺書や写真、遺族の手記などを集めたパネル展「私の中で今、生きているあなた」が、17日から3日間、出雲市塩治有原町の市民会館で始まる。「自殺は個人ではなく社会の問題。現実を知り、正面から向き合ってほしい」とのメッセージが詰まっている。入場無料。



鳥取県江府町の会社員足立昇さん(53)は2001年5月、20歳を迎えたばかりの長男・洋さんを失った。遺書には「また、お父さんとお母さんの子供として生まれ変わりたいな」と書き残されていた。最後の会話は、数日前の洋さんの誕生日だった。今日から大人になった。今日から大人だ。自分のことはさっさとしないと駄目だ」と掛けた。

パネル展会場では、自ら命を絶った洋さんの幼いころの写真などを前に、思い出を語る足立さん

言葉が追い打ちをかけたのでは、なぜ気付けなかったのか、と今でも罪悪感にさいなまれるという。

洋さんは、同い年の2人組から悪質な恐喝を受ける場所でも、洋さんの写真を見ていたことが、後で分かった。その後、加害者への激しい怒りと悲しみを訴え掛けた。県内の自死遺族でつくる「しまね分かち合いの会・虹」と、NPO法人・働く者のメンタルヘルズ相談室の共催で、18日に同会が市民会館で開く「しまね自死遺族フォーラム2010」に合わせ、人を超える自殺者数の推定を企画した。

